

Cefadroxil (BL-S 578) の臨床的検討

玉木 重

公立藤田総合病院内科

Cefadroxil (BL-S 578) を20例の各種感染症(呼吸器感染症 8例, 尿路感染症 8例, 左大腿骨切端部膿瘍 1例, 慢性腎不全の A-V 外シャント部化膿創 2例および右腋窩部膿瘍 1例) に使用し, 次の成績を得た。

- 1 20例中著効9例, 有効11例であった。
- 2 呼吸器感染症では尿路感染症よりも使用量が多くを要する成績であった。
- 3 慢性腎不全の血液透析例にも変則的な使用法で有効な成績を得た。
- 4 明らかな副作用は認めなかった。
- 5 本剤は臨床的に有用な薬剤であると思われる。

新しく開発された経口化学療法剤である Cefadroxil (BL-S 578) の臨床効果をみる目的で, 成人における各種感染症に使用したので, その成績を報告する。

I. 臨床成績

1. 対象ならびに方法

20例の感染症例に BL-S 578 による治療を行なった。

Table 1 Clinical results with cefadroxil

Case	Age	Sex	Diagnosis	Organism isolated	Daily dose (g) × days	Results	Side effect	Remarks
1	58	F	Pneumonia	Gram (+) coccus	1.5 × 20	excellent	(-)	
2	73	F	Pneumonia	"	1.5 × 23	excellent	(-)	Cirrhotic tuberculosis
3	68	M	Pneumonia	"	1.5 × 21	excellent	(-)	
4	34	F	Pneumonia	"	1.5 × 12	good	(-)	
5	27	F	Pneumonia	"	1.5 × 14	good	(-)	
6	28	M	Pneumonia	"	1.5 × 22	good	(-)	
7	72	M	Pneumonia	<i>Strept. pn.</i>	1.5 × 23	good	(-)	Myocardial infarction
8	51	F	Chr. bronchitis	<i>β-Hemolyt. str.</i>	1.5 × 21	excellent	(-)	Rheumatism

Table 2 Clinical results with cefadroxil

Case	Age	Sex	Diagnosis	Organism isolated	Daily dose (g) × days	Results	Side effect	Remarks
9	72	F	Chr. U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 14	excellent	(-)	Spinal paralysis after operative spinal tumor
10	25	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 12	excellent	(-)	Nephrotic syndrome
11	28	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 8	excellent	(-)	Nephrotic syndrome
12	26	F	Chr. pyelonephritis	<i>E. coli</i>	0.75×10	excellent	(-)	Nephrotic syndrome
13	50	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 16	good	(-)	
14	78	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	0.75×6	good	(-)	Cerebral infarction
15	72	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 14	excellent	(-)	D.M.
16	30	F	Acute U T I	<i>E. coli</i>	1.5 × 14	good	(-)	

Table 3 Clinical results with cefadroxil

Case	Age	Sex	Diagnosis	Organism isolated	Daily dose (g) × days	Results	Side effect	Remarks
17	56	M	Abscess of post-operative end of links femoris	Gram (+) coccus	0.25 ? 0.5 } × 14	good	(-)	Chr. renal failure (on H.D.)
18	43	F	Suppurative focus of arterio-venous external shunt	"	0.25 ? 0.5 } × 10	good	(-)	" (")
19	57	F	"	"	0.25 ? 0.5 } × 10	good	(-)	" (")
20	69	M	Abscess of right axillar region	"	1.5 × 14	good	(-)	Cirrhotic tuberculosis

Table 1,2,3 に示すごとく患者の内訳は当院内科入院患者18例と外来患者2例で、重症4例、中等症12例および軽症4例である。性別では男5例、女15例で、年齢は25才から78才までである。

疾患別では呼吸器感染症8例（肺炎7例、慢性気管支炎の急性増悪1例）、内科領域の尿路感染症8例（慢性尿路感染症1例、慢性腎盂腎炎の急性増悪1例、急性尿路感染症6例）、左大腿骨切端部膿瘍1例、慢性腎不全のA-V外シャント部化膿創2例、および右腋窩部膿瘍1例である。

本剤の投与量は、15例では1回500mg、1日3回投与、2例では1回250mg、1日3回の投与を行ない、慢性腎不全で血液透析療法をうけている症例では非透析日には1日1回250mgを、透析当日には1回250mg、1日2回（透析開始前と終了後）の変則的投与を行なった。

投与期間は6～23日であるが、呼吸器感染症では約3週間の例が多く、尿路感染症では1～2週間であり、血液透析例では10～14日であった。投与総量は3.5gから34.5gであった。なお、いずれの症例でも他の化学療法剤との併用はしていない。

検出菌は、呼吸器感染症例と化膿創症例とではグラム陽性球菌が主であり、尿路感染症例では全て大腸菌であった。

副作用に関しては、本剤投与前、投与期間中、投与後に腎機能、肝機能および末梢血について検討した。

2. 効果判定

本剤の使用期間ならびに投与総量を勘案しながら、おおむね下記の基準に従って効果を判定した。

著効(++)：①原因菌の消失ないしは著しい減少と臨床症状および検査成績の改善をみたもの。②原因菌不明であっても、臨床症状の急速な改善をみたもの。③他の抗

生剤治療が無効でBL-S 578に変更して効果のみられたもの。

有効(+):原因菌消失と臨床症状の改善のいずれかがみられたもの。

やや有効(±):菌の消失をみず、臨床症状が不変もしくは増悪したもの。

3. 結果

(1) 臨床効果

対象とした20症例中、著効9例と有効11例で無効例はなかった。疾患別では、呼吸器感染症8例中著効4例、有効4例であり、尿路感染症では著効5例、有効4例であった。また化膿創症例では4例有効の成績であった。

細菌学的には、13例で検出菌の消失を、7例で菌の減少をもたらした。

そのうち、症例8は、これまでもたびたび急性増悪をくり返していたが、今回の本剤投与により喀痰量の減少と共に喀痰中検出菌の著減をみとめ、胸部ラ音の減少をみたので著効とした。症例9は著効の基準の③項に該当するものである。

(2) 症例

① 症例9 72才、女性 (Fig. 1)

脊髄腫瘍摘出術後の下半身麻痺に伴なう反復難治性慢性尿路感染症である。10年来下半身不随で、膀胱直腸障害を有し、この間くりかえし尿路感染症の症状出役し、その都度治療していたが、今回も膿尿と高熱のため紹介されて入院した症例である。入院時の尿は膿尿で、*E. coli* ($\times 10^7/\text{ml}$) を分離した。尿蛋白 100 mg/dl, 尿中赤血球(+), 白血球(卅), 扁平上皮(卅), 尿糖(-), CRP(+), 赤血球 338万, 血色素 9.8 g/dl, 白血球 17,800(核左方移動(+)), 赤沈値 1時間 78 mm, ASLO 12 Tu, BUN 10 mg/dl, GOT 32 u。本剤の投与を開始して約10日で平熱化し、14日間の投与で白血球正常化、

Fig. 1 Clinical course: Case 9. 72 y. F. Chr. UTI

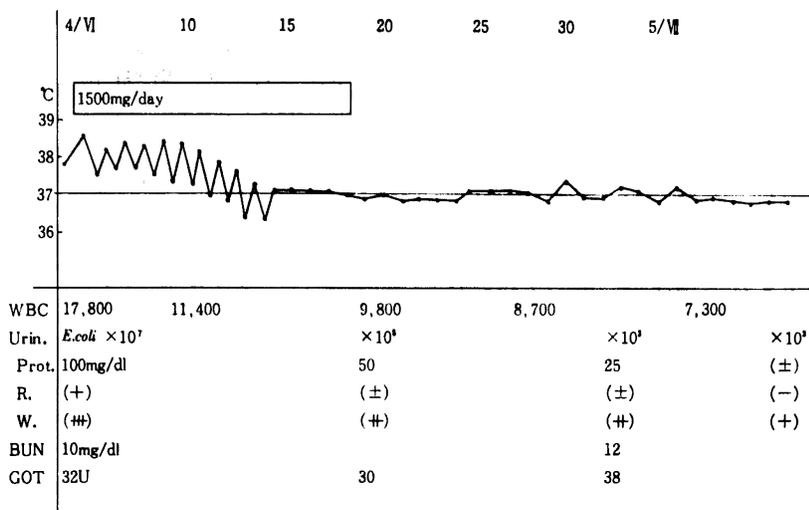


Fig. 2 Clinical course: Case 17. 56 y. M. Abscess of post-operative end of links femoris

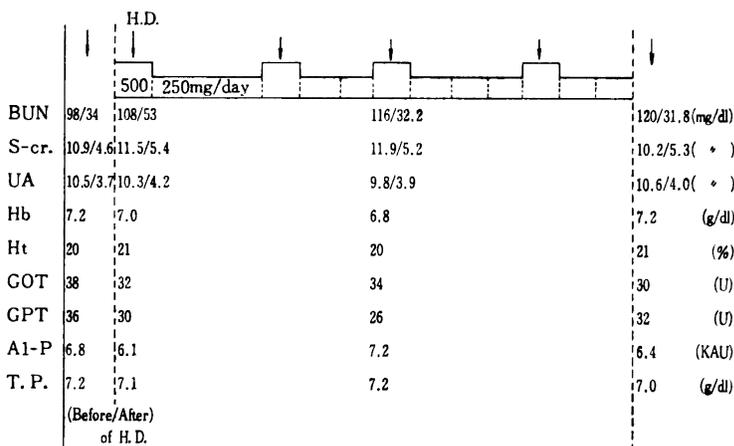


Fig. 3 Serum levels of BUN

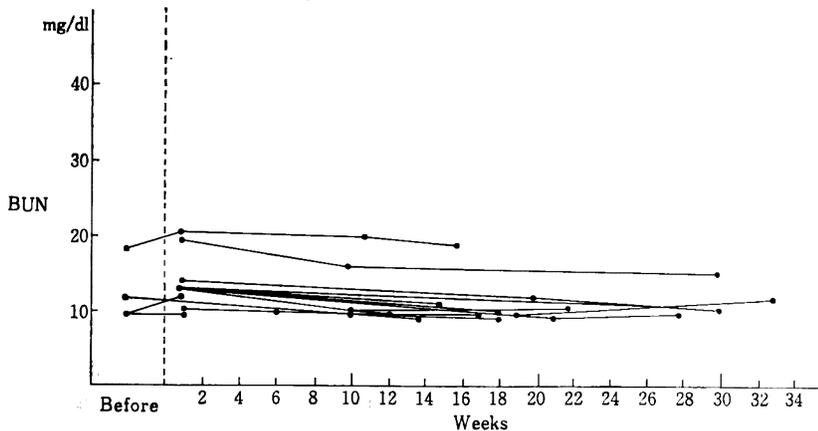
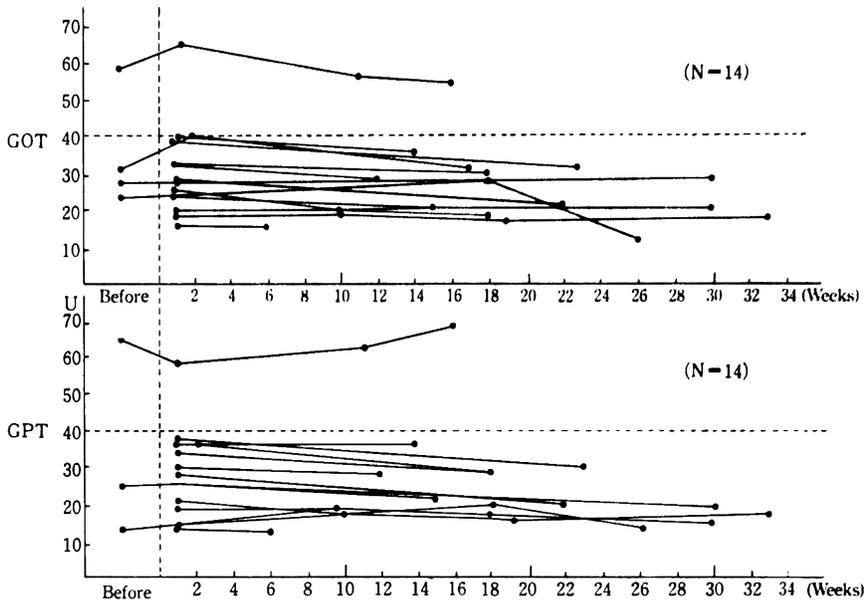


Fig. 4 Serum levels of GOT and GPT



尿の清澄化が認められると共に菌量の減少 ($\times 10^7$ 以上 $\rightarrow \times 10^5$) があったので著効とした。1日 1.5g で総量 21g である。後日実施した DIP で後天性膀胱憩室を確認した。

② 症例17 56才, 男性 (Fig. 2)

慢性腎不全のため血液透析療法を行なっている症例で、以前に切断した左大腿骨切断端部に小膿瘍の形成がしばしばくり返され、今回も大豆大の膿瘍形成を認めたので、本剤の投与を行なった。すなわち、血液透析当日には 250mg を透析開始前と終了時の2回に投与し、非透析日には1日1回 250mg の投与を行なった。かかる少量の日当量にもかかわらず膿瘍の縮小軽快と、菌の陰性化があり、疼痛の消退と平熱化をみとめたので有効とした。

(3) 副作用

本剤服用に起因したと思われる副作用は全くなかった。

20例中14例では、本剤投与前、投与期間中および投与後に、末梢血、腎機能と肝機能について検討し、末梢血では何らの異常を認めなかった。血液透析療法症例の3例を含めて腎機能にも本剤に起因する異常は認めなかった (Fig. 3)。肝機能では、本剤投与前から GOT と GPT の上昇していた1例でも、本剤によって急激な増悪をきたさなかったし、他の13例でも正常域値内での変動に止まった (Fig. 4)。

II. 考 察

呼吸器感染症, 尿路感染症および化膿創症の計20例に

本剤を投与し、著効9例、有効11例の成績をえた。対象20例中13例では慢性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病、リウマチと肺結核などの易感染性疾患、さらに脳梗塞や心筋硬塞などの合併症や基礎疾患を有していた。ことに症例8は関節リウマチに反復難治性慢性気管支炎の併存例で、しばしば症状の増悪をくりかえしていたが、今回の感染症の急性増悪には本剤が著効を奏した。症例9は経過表を前述したが、難治慢性尿路感染症は下半身麻痺と膀胱憩室に起因するもので、宿主側要因の大きな感染症患者である。症例10, 11, 12の3例はネフローゼ症候群を基礎疾患としており、症例14例は脳血栓症でパルーン装用例である。症例15は糖尿病を基礎疾患に有し数回の尿路感染症の前歴を有する例であるが、これらの症例においても著効ないしは有効の成績をおさめた事実は、一応、評価に値する成績と思われる。また、症例17, 18, 19の3例は慢性腎不全のため血液透析療法をうけている症例であり、本剤の1日の投与量と投与総量においては他の17例のそれより極めて少ない量であるにもかかわらず、3例ともに有効な成績をえた。このことは本剤の投与量と腎機能との関係、また本剤の透析性について示唆するものがある。

副作用については、自覚症状からは何もなく、検査成績からも、特に腎および肝機能に対して明らかに本剤に起因する副作用と思われるものはなかった。

文 献

- 1) BUCK, R. E. & K. E. PRICE: Cefadroxil, a new broad-spectrum cephalosporin. *Antimicrob.*

- Agents & Chemoth. 11: 324~330, 1977
- 2) PFEFFER, M.; A. JACSON, J. XIMENES & J. P. DE MENEZES: Comparative human oral clinical pharmacology of cefadroxil, cephalixin, and cephradine. Antimicrob. Agents & Chemoth. 11: 331~338, 1977
- 3) セファドロキシル中間研究会記録, 1978

CLINICAL INVESTIGATIONS ON CEFADROXIL (BL-S 578)

SHIGERU TAMAKI

Clinic of Internal Medicine, Public Fujita General Hospital

Cefadroxil (BL-S 578) was administered clinically in 20 cases of various infections (8 cases of respiratory tract infection, 8 cases urinary tract infection, 1 case postoperative end of links femoris, 2 cases suppurative focus of arteriovenous external shunt and one case abscess of right axilla region) and the results were obtained as follows.

(1) Twenty cases treated by BL-S 578 resulted in excellent in 9 cases, good in 11 cases, and poor in none.

(2) The result indicated that dose of cefadroxil in respiratory tract infection was higher than that in urinary tract infection.

(3) Good results were obtained in 1 case of chronic renal insufficiency under hemodialysis by modifying the dosing method of BL-S 578.

(4) No noteworthy side effects were observed with BL-S 578.

(5) BL-S 578 may be expected to be a clinically useful drug.